東日本鉄道OB会の皆さまへ

東日本旅客鉄道株式会社
常務取締役
鈴木　均

向寒の候、東日本鉄道OB会の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。6月に常務取締役に就任した鈴木です。私は運輸部門に長く携わり、現在は鉄道事業本部 副本部長として安全、運輸車両を担当しております。

東日本鉄道OB会の皆さまには当社業務に関し、日頃からご指導・ご支援をいただき深く感謝申し上げます。

6月の就任以降、秋田県や千葉県、茨城県など台風や線状降水帯などによる豪雨で大きな被害が発生しました。被災された皆さまにお見舞い申し上げるとともに、復旧の取組みにご支援いただいた皆さまに改めて感謝申し上げます。また、8月5日には東海道線大船駅構内で、電化柱と列車が衝突し、お客さま4名と運転士が負傷したほか、10名以上のお客さまが体調不良を訴えるなど、重大な事故を発生させてしまいました。同種箇所の緊急点検、追加点検を実施して安全確保に努めているほか、（公財）鉄道総合技術研究所の専門家にも入っていただいて原因究明・対策検討委員会を設置し、事故の原因究明と対策の策定を進めています。また、対策本部の運営やお客さま救済などについても検証し、教訓化してまいります。

安全部門においては、本年は「グループ安全計画2023」の最後の年であり、次の5年間の安全計画を策定する節目の年となります。新しいグループ安全計画では、社員の働き方の変化や自然災害の激甚化など、社内外の大きな環境変化を踏まえ、経験したことのない「未知の事故・事象発生」の可能性を想定し、これまでは想定外だったリスクも想像して対処する必要があることを課題として認識しています。築いてきた「安全文化」や、安全の「しくみ」「設備」などの安全の基盤を強固にしていくとともに、取組んできた「仕事の本質」の理解により想定外も想像することをめざしていきます。新しい安全計画は、「本質を踏まえ、想定外も想像して安全を先取る」ことをコンセプトに、今秋発表の予定です。

モビリティ・サービス部門においては、「究極の安全」の追求をすべての取組みの土台として、さまざまな改革と社員の成長の後押しに取組んでまいります。「連携と融合」により、輸送サービスと生活サービス、IT・Suicaサービスが連携して列車荷物輸送などの新しい価値創造に取組むとともに、ITツールの活用による業務変革、乗務員基地再編を進め、海外事業を担う人材の育成や新たなビジネス開発にも力を注いでいきます。サービス品質改革・輸送サービスの質的変革の面では、お客さま救済に徹底的にこだわるとともに、ダウンタイム削減に取組みます。北陸新幹線敦賀開業や在来線特急の着席サービス向上などの重要施策を着実に実行するほか、中央快速線グリーン車の営業開始に向けた準備を進めてまいります。経営体質の抜本的強化に向けては、オフピーク定期券の購入促進の強化やグリーン車などへのシーズン別料金を導入するなど、ピークシフト施策を強力に推進します。あわせて設備のスリム化や車両数の削減、車両CBMの推進に努めるほか、ワンマン運転の拡大やドライバレス運転技術の導入を推進し、サステナブルな鉄道事業運営を推進できる体質への転換を進めます。

昨年度は3期ぶりの黒字転換となりました。OB・OGの皆さまにも「BUY JR」キャンペーンをはじめ、JR東日本グループの増収にご協力いただき、感謝申し上げます。今年度も安全の確保を大前提に、収益力強化やコストダウンに確実に資する成長投資を積極的かつ迅速に実施し、サステナブルな事業運営と企業価値の向上をめざし、さらに進んでまいります。皆さまには、これまでの事業の強みを活かしながら、新たな事業領域にも挑戦していく社員に対し、変わらぬご支援とご指導をお願いいたします。

皆さまのますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

photo topics

トルコ国鉄への災害復旧支援を実施

国際協力の一環として、4月から5月にかけて、今年2月にトルコ・シリア地震で被災したトルコ国鉄からJICAを通じて要請があり、復旧支援を実施しました。当社国際事業本部 阿部さん、建設工事部 藤原マネージャー（当時）、構造技術センター 小林ユニットリーダー・山口マネージャー・小泉マネージャー・細井チーフ、および日本コンサルタンツ㈱ 松尾部長の計7名が派遣され、トルコ国鉄の方々とともに現地調査および復旧方法に関する検討を行いました。技術者同士で図面を囲んで論じ合う場面も見られ、JR東日本グループの高い技術力を国際協力の場で発揮しました。

第73回全日本実業柔道団体対抗大会で優勝

6月3～4日、厚生労働大臣杯争奪第73回全日本実業柔道団体対抗大会が三重県の四日市市総合体育館で開催され、女子第1部で当社の女子柔道部が優勝しました。団体の優勝は現在の本社所属としての創部後、初めてとなります。女子第1部には計4チームが出場。試合はリーグ戦で行われ、3勝1引き分け（1チームが欠場のため不戦勝を含む）の無敗で大会を制しました。

第4回乗務員技能競技会 賞状授与式を開催

6月9日、第４回乗務員技能競技会の優秀者への社長賞および鉄道事業本部長賞の授与式を行いました。競技者は、早期運転再開に向けた迅速な行動や、混乱する車内でお客さまに安心を与えられる対応など、日頃の訓練の成果を存分に発揮しました。その中で、特に優秀な成績を収めた皆さんに各賞を贈呈し、その成果を讃えました。

令和4年度土木学会賞各賞を受賞

6月9日、公益社団法人 土木学会において優れた土木技術などを表彰する令和4年度土木学会賞の授与式が開催されました。土木工学または土木事業への著しい貢献が認められ、功績賞・技術賞をはじめ、JR東日本グループなどから多くのプロジェクト・個人の方が受賞しました。また、7月25日に深澤社長に受賞について報告を行いました。

旅して集めるデジタル版スタンプ「TRAIN TRIP」が海外・国内で各賞を受賞

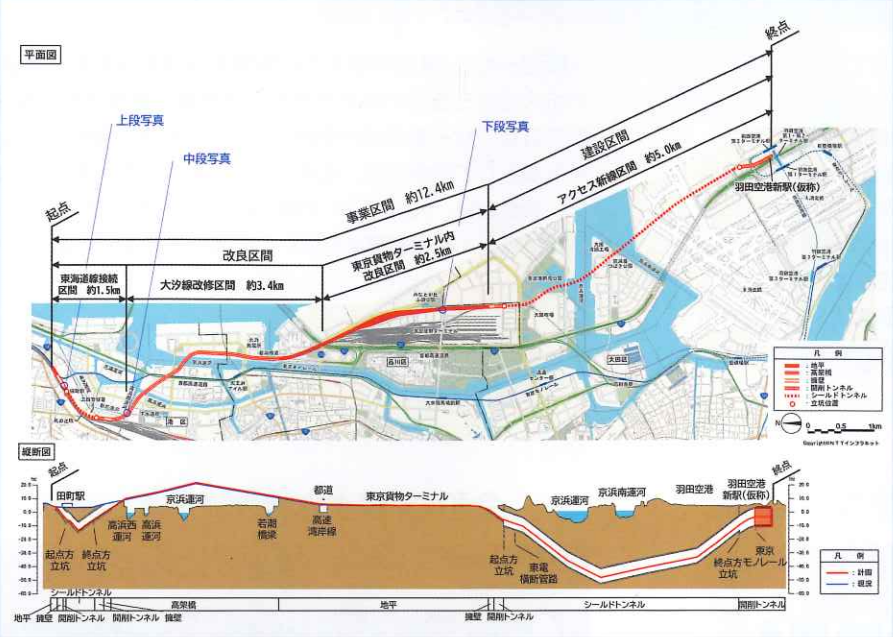
6月下旬に、世界3大広告賞のひとつ「カンヌライオンズ国際クリエイティビティ・フェスティバル」において、JR6社で実施した鉄道開業150年キャンペーンがグランプリを受賞。中でも全国各地の駅で集めるデジタル版スタンプ「TRAIN TRIP」が高い評価を得ました。また、国内でもいくつかの賞を受賞しています。ぜひ、皆さんもスタンプを集めてみてください。

新幹線運転士による車内放送トライアルを実施

お客さまへの情報・サービスの提供により新幹線の新たな価値を創出するため、7月第1週から約3週間、トライアル期間として、新幹線運転士による車内放送を実践しました。近年リスクが増している緊急事態などに備え、新幹線運転士の乗務力（異常時対応力・接客力）の向上をめざしていきます。

写真で見る「羽田空港アクセス線（仮称）」～12.4kmの今～

当社は、既存の鉄道ネットワークを活用し、多方面から羽田空港へのダイレクトアクセスを実現する「羽田空港アクセス線（仮称）」の計画を推進しています。計画ルートのうち、「東山手ルート」の鉄道施設変更認可を2023年1月31日付、「アクセス新線」の工事施行認可を2023年3月24日付で国土交通省より受けました。



「羽田空港アクセス線（仮称）」は、東京方面からの「東山手ルート」、東京貨物ターミナル付近から羽田空港までを結ぶ「アクセス新線」を整備することで、宇都宮線・高崎線・常磐線方面からのダイレクトアクセスを実現します。2031年度の開業をめざしており、現在30分程度要している東京駅から羽田空港までの所要時間が、開業後は乗り換えなく約18分に短縮されます。

本計画は、6月に起工式を行い、現在は本格的な工事に着手しています。

新設するアクセス新線区間に加え、20年以上休止している大汐線や東京貨物ターミナル付近は、橋りょうや高架橋などの既存ストックを有効活用するため、各設備の健全性を調査し、必要により改修し使用していく計画です。生まれ変わる前の貴重な休止中の今を紹介します。

田町駅から東京方面の様子で、右の列車は東海道線下り列車です。山手線外回り（右から4本目）、京浜東北線南行（右から3本目）、東海道線上り（右から2本目）を順次移設して、東海道線上下線間に羽田空港アクセス線（仮称）のスペースを確保していきます。 奥に見える信号機付近から、羽田空港アクセス線（仮称）が始まります。

高浜西運河にかかる道路橋の芝浦橋のトラスに大汐線（手前）・東海道新幹線回送線（奥）が載っている特異な構造をした芝浦併用橋。この辺りから、既存ストックを活用する大汐線改修区間が始まります。

東京貨物ターミナル内改良区間は、東京臨海高速鉄道りんかい線の八潮車両基地に並行して線路が整備されるほか、運行に必要となる車両留置線や保守基地線も整備します。

撮影　松田博和（東京建設プロジェクトマネジメントオフィス）